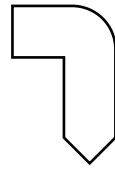


9月19日(木)

## ろう教育部門5 聴覚障害児への発音指導の目的と意義

- 1 目的
- ・ 日本語を書いて読むことができる。
  - ・ 書き言葉の習得。



そのために

- (1) 発音の要領を学び、発音の明瞭性を高める。
- (2) 聴覚を活用しながら学習を行うことで、聴覚活用の伸長をはかる。
- (3) 発音の要領を知ることで、スムーズに**読話**できることを目指す。
- (4) 音韻意識の向上を目指し、言葉の力を高める。

## 2 意義

子どもの書記言語(書き言葉)能力を高めることは自立と社会参加のツールを増やすこと。

音声言語と文字を一致させる。

(子どもの発する音声言語が不明瞭であっても、それが正しい文字と一致するならば認めたい。)

## 3 発音の指導

- ① 聞き取り
- ② 舌の体操
- ③ 母音の練習
- ④ 呼吸(息の出し方)
- ⑤ 日本語の発音の特徴について知る。(母音・二重母音・子音・促音・撥音・長音)
- ⑥ 口声模倣(話者の口を見ながら、聞こえたとおりに言う)
- ⑦ 音節の指導(各音の発音要領から)
- ⑧ 語句の指導(各音のわたり、韻律、リズム、アクセント、抑揚など)
- ⑨ スピーチ内の指導